

山形花笠まつり

正調花笠踊りの集団美。華麗な正調女踊り。勇壮な正調男踊りなど、多彩な踊りが観客を魅了する真夏の夜の祭典です。

山形花笠まつりとは

「ヤッショ、マカショ。」の勇ましい掛け声と花笠太鼓が高らかに真夏の夜に響き渡るなか、『花笠音頭』に合わせてあでやかな衣装に身を包んだ1万人を超える踊り手の躍動感あふれる踊りと、山形の花である『紅花』をあしらった笠の波がうねり咲きこぼれ群舞を繰り広げます。

山形花笠まつりの歴史

蔵王開山1,250年にあたる昭和38年(1963年)、山形県、山形市、山形新聞社、山形商工会議所などが中心となり、蔵王の観光開発とPRを目的に「蔵王夏まつり」が開催されました。

『山形花笠まつり』は「花笠音頭大パレード」として、この「蔵王夏まつり」のイベントの一つでしたが、昭和40年(1965年)からは単独の『山形花笠まつり』として行う現在の形となりました。

昭和45年(1970年)に開催された大阪万博にて、日本を代表する民俗芸能の一つとして花笠踊りを披露したことから、『山形花笠まつり』の知名度が全国に広がりました。

いまでは3日間で踊り手が1万人を超え、多くの観客を集める大きなまつりとなり、東北を代表する夏まつりの一つとして全国的に親しまれるまつりへと成長しました。



大阪万博『太陽の塔』前にて(1970年)

花笠の種類

花笠踊りに欠かせない花笠は、菅笠に“やまがたの花・紅花”をイメージした花をあしらったもので、踊りの種類に合わせて用意されています。市販の花笠以外に、団体が独自で手作りした笠など、思い思いの笠が使われています。



花笠(普通)



笠回し花笠



四方山会花笠



男花笠



尾花沢花笠

花笠踊りの種類

正調花笠踊り ~薫風最上川~ (通称：女踊り)



「母なる川」最上川を渡る爽やかな風と、稲穂の揺れをイメージした優雅で華麗な正調花笠踊り。第1回目から踊られている伝統的な正調花笠踊りです。

正調花笠踊り ~蔵王暁光~ (通称：男踊り)



蔵王連峰の夜明けと、大地をしっかりと踏みしめ、自然の恵みへの感謝をイメージした勇壮な正調花笠踊りです。

笠回し系花笠踊り



花笠踊り発祥の地・尾花沢系の豪快に花笠を振り回すダイナミックな花笠踊りです。

創作花笠踊り



参加者が独自に趣向をこらした花笠踊りです。

詳しくは「山形花笠まつり」
ホームページをご覧ください。

